

本文

一年（ひととせ）、入道殿の、大井川に逍遙（せうえう）せさせ給ひ〔①〕しに、作文（さくもん）の舟・管絃（くわんげん）の舟・和歌の舟と分かたせ給ひ〔②〕て、その道にたへたる人々を乗せさせ給ひ〔③〕しに、この大納言の参り給へるを、入道殿、「かの大納言、いづれの舟にか乗らるべき〔④〕。」とのたまはすれ〔⑤〕ば、「和歌の舟に乗り侍ら〔⑥〕む。」とのたまひて、詠み給へるぞかし〔⑦〕、

小倉山嵐の風の寒ければもみぢの錦着ぬ〔⑧〕人ぞなき〔⑨〕

申し受け給へるかひ〔⑩〕ありてあそばしたりな。御みづからものたまふなるは〔⑪〕、「作文のにぞ乗るべかりける〔⑫〕。さて、かばかりの詩を作りたらましかば〔⑬〕、名の上がらむこともまさりなまし〔⑭〕。口惜しかりけるわざかな〔⑮〕。さても、殿の『いづれにかと思ふ。』とのたまはせしになむ、われながら心おごり〔⑯〕せられし。」とのたまふなる。一事のすぐるるだにあるに〔⑰〕、かくいづれの道もぬけ出で給ひけむは、いにしへもはべら〔⑱〕ぬことなり。

設問

- 傍線部①「させ給ひ」・②「せ給ひ」・③「させ給ひ」について、次の各問いに答えなさい。
 - （1）これらに共通して含まれる、尊敬を表す補助動詞「給ふ」を除いた助動詞「せ」「させ」の文法的意味を答えなさい。
 - （2）「せ給ふ」「させ給ふ」のように尊敬の助動詞に尊敬の補助動詞が重なる敬意の表し方を、漢字三字で何というか答えなさい。
 - （3）①～③は誰に対する敬意か。人物名を答えなさい。
- 次の語句の本文中における意味を答えなさい。
 - （1）逍遙（せうえう）〔傍線部①の直前〕
 - （2）たへたる〔「その道にたへたる人々」〕
 - （3）かひ〔傍線部⑩〕
 - （4）口惜し〔傍線部⑮〕
- 傍線部④「いづれの舟にか乗らるべき」を現代語訳しなさい。
- 傍線部④「乗らるべき」の「る」の文法的意味を、次から一つ選びなさい。
ア 受身 イ 尊敬 ウ 可能 エ 自発
- 本文中には係助詞による「係り結び」が複数ある。傍線部④「いづれの舟にか乗らるべき」の係り結びについて、次の各問いに答えなさい。
 - （1）係助詞を抜き出しなさい。

- (2) 結びの語を本文中から抜き出し、その活用形（終止形・連体形・已然形など）を答えなさい。
6. 傍線部④「べき」・⑫「べかり（ける）」の助動詞「べし」の文法的意味として最も適当なものを、それぞれ次から一つずつ選びなさい。
- ア 推量 イ 意志 ウ 適当・当然 エ 可能 オ 命令
7. 傍線部⑤「のたまはずれ」について、次の各問いに答えなさい。
- (1) この語の終止形（基本形）を答えなさい。
- (2) 敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）を答えなさい。
- (3) 誰から誰への敬意か答えなさい。
8. 傍線部⑥「侍ら」について、次の各問いに答えなさい。
- (1) 敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）を答えなさい。
- (2) 誰から誰への敬意か答えなさい。
9. 傍線部⑦「詠み給へるぞかし」の「ぞかし」は、文末に用いて意味を添える働きをもつ。ここでの「ぞかし」のニュアンスとして最も適当なものを、次から一つ選びなさい。
- ア 疑問・問いかけ イ 念を押し、強く言い切る ウ ためらい・遠慮 エ 願望
10. 本文中の和歌「小倉山嵐の風の寒ければもみぢの錦着ぬ人ぞなき」について、次の各問いに答えなさい。
- (1) この和歌を現代語訳しなさい。
- (2) 「もみぢの錦」とは何を何にたとえた表現か。説明しなさい。
- (3) この和歌に用いられている主要な修辞法（表現技法）を一つ挙げ、その箇所を示しなさい。
11. 傍線部⑧「ぬ」の文法的意味を答え、その終止形（基本形）を書きなさい。
12. 傍線部⑨「なき」は、直前の係助詞「ぞ」を受けて結びとなっている。この「なき」の活用形を答えなさい。また、もし「ぞ」がなければどのような形（語）になるか答えなさい。
13. 傍線部⑩「のたまふなるは」、および文末「のたまふなる」の「なる」は、いずれも同じ助動詞である。この「なる」の文法的意味として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。
- ア 断定 イ 存在 ウ 伝聞・推定 エ 比況
14. 傍線部⑪「作文のにぞ乗るべかりける」を、省略された語を補って現代語訳しなさい。
15. 公任は和歌の舟を選んで名歌を詠み、賞賛を受けたにもかかわらず、傍線部⑫のように「作文の舟に乗ればよかった」と述べている。それはなぜか。公任の心理を、本文に即して説明しなさい。
16. 傍線部⑬「ましかば」・⑭「なまし」について、これらを含む一文「さて、かばかりの詩を作りたらましかば、名の上がらむこともまさりなまし」は、どのような構文（語法）か。次から最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 已然形＋「ば」による順接の確定条件 イ 「ましかば～まし」による反実仮想 ウ 「な～そ」による禁止 エ 「こそ～已然形」による逆接
17. 傍線部⑮「口惜しかりけるわざかな」を現代語訳しなさい。
18. 傍線部⑯「心おごり」とは、ここではどのような心情を表すか。簡潔に説明しなさい。
19. この章段で、語り手は公任のどのような点を称賛しているか。最終文「一事のすぐるだにあるに、かくいづれの道もぬけ出で給ひけむは、いにしへもはべらぬことなり」をふまえて説明しなさい。

20. 傍線部⑰「一事のすぐるるだにあるに」の「だに」の意味・用法として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

ア 「～さえ」(最小限の限定) イ 「～までも」(添加) ウ 「～さえも」(程度の軽いものを挙げて重いものを類推させる) エ 「せめて～だけでも」(願望)

21. 傍線部⑱「はべら」も⑥と同じ語であるが、ここでの敬語の種類(尊敬・謙譲・丁寧)を答えなさい。

22. 「作文の舟」の「作文」とは、ここではどのような意味か。漢字二字程度で答えなさい。

23. 【文学史】『大鏡』について、次の各問いに答えなさい。

- (1) 『大鏡』が属する、歴史的事実を物語風に記した作品群を何というか。漢字四字で答えなさい。
- (2) 『大鏡』は、主に誰の栄華を中心に描いているか。人物名を答えなさい。
- (3) 『大鏡』が成立した時代を、次から一つ選びなさい。ア 奈良時代 イ 平安時代後期 ウ 鎌倉時代 エ 室町時代
- (4) 『大鏡』は、個人の伝記を中心に歴史を記述する形式をとる。このような、中国の歴史書『史記』に由来する記述形式を何というか。漢字三字で答えなさい。
- (5) 『大鏡』『今鏡』『水鏡』『増鏡』を総称して何と呼ぶか。答えなさい。